

日本大学の現況と課題

—全学自己点検・評価報告書2012—

(大学・短期大学部・専門学校)

点検・評価結果及び改善意見 【医学部附属看護専門学校】



日本大学

目 次

総合的な点検・評価結果

I. 理念・目的	1
II. 教育研究組織	3
III. 教員・教員組織	4
IV. 教育内容・方法・成果	6
IV-1 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針	6
IV-2 教育課程・教育内容	8
IV-3 教育方法	10
IV-4 成果	12
V. 学生の受け入れ	13
VI. 学生支援	16
評定一覧表	19

I. 理念・目的

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

【評価の視点】

- ① 理念・目的の明確化
- ② 個性化への対応
- ③ 大学の理念「自主創造」の能力を持つ人材の育成

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

本校の理念は、「日本大学の教育理念と目的である自主創造を目指し、優しさ・倫理観・豊かな感性を備えた専門職業人を育てます。」としている。教育目的は「看護を職業とするための専門的知識・基本的技術および態度を備えた看護の実践者を育てる。また、日本大学および社会に貢献できる人材を育成することを目的としている。この理念・目的に基づいて、教育目標を明確に定めている。

【点検・評価項目】

(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

【評価の視点】

- ① 構成員に対する周知方法と有効性
- ② 社会への公表方法

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

教育理念・目的・目標は「学生便覧」「学習要項」「学校案内」「ホームページ」に明示している。進学説明会・入学時オリエンテーション・臨床指導者研修会で配付し説明することで社会に公表している。また、全教職員が講義・実習・学校生活指導等で機会に触れ発言・指導することで教育活動に浸透させている。

【点検・評価項目】

(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

- ① 学内外からの意見聴取

点検・評価結果

＜医学部附属看護専門学校＞

平成 21 年度カリキュラム改正に伴い教育理念・目的・目標を専任教員主催の「カリキュラム検討委員会」で再検討し一部修正した。検討した内容は全教員の共通理解を得、かつ各学科科目に反映させている。教員の自覚と認識により学生に授業・実習などで関わる際に浸透するよう日頃から意識して理念・目的に触れる機会を作っている。また、年度毎に委員会で検証している。

講義科目では全講師に対する学生の授業評価を毎年実施し、評価結果を講師に返却し改善点について説明と協力を得ている。実習も評価を実施し、看護部長から該当病棟責任者に返却され教育目標の妥当性を検証している。

2. 点検・評価

＜効果が上がっている事項＞

＜医学部附属看護専門学校＞

実践的な看護基礎能力をもった看護の実践者として主に付属病院の就職率は例年 85%以上、他病院を合計すると就職率 95%以上であり、成果を収めている。

付属高校および他校の進学説明会の参加者が増加している。看護師の職業的・経済的安定から需要増加がみられる。

専任教員の「カリキュラム検討委員会」のみならず、医学部や臨床の教育担当を含めた「教育委員会」や「看護専門学校と付属病院協議会」の委員会を開催し、特に新カリキュラムで追加された教育内容の過不足、整合性について教育目標の検証を双方で実施している。講義・実習等で理念や目標の重要事項を用いて説明・指導することで学生や臨床側にも周知され、浸透している。

3. 将来に向けた発展方策

＜効果が上がっている事項＞

＜医学部附属看護専門学校＞

「実習連絡会」や「看護専門学校と付属病院協議会」で報告・協議を重ねていき、本校の教職員が教育理念・目的・目標についてさらに理解を深め、進学相談会での説明時に積極的に広報する。

4. 根拠資料

- ① 学生便覧 (資料 1-1)
- ② 学習要項 (資料 1-2)
- ③ 学校案内 (資料 1-3)

Ⅱ. 教育研究組織

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

- (1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

【評価の視点】

- ① 教育研究組織の編制原理
- ② 理念・目的との適合性
- ③ 学術の進展や社会の要請との適合性

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

本校は、看護を職業とするための専門的知識・基本的技術および態度を備えた看護の実践者を育てることを目的に設置された3年課程の看護学科（現在の定員は80名）である。看護師養成機関としての使命を果たすため、定員数の確保、安定した付属病院への就職、国家試験の合格状況は常に全国平均を上回り教育目的に即した教育指導を実施している。平成19年4月に男女共学となり現在に至っている。

【点検・評価項目】

- (2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

- ① 委員会等の設置状況、運営状況

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

学校長の指揮の下、医学部長及び付属病院長等からの要望や意見を踏まえ、本校のあり方について「運営委員会」「教育委員会」「看護学校及び付属病院協議会」の委員会で適宜検討を行い、その妥当性が検証されている。

4. 根拠資料

組織図 (資料2)

Ⅲ. 教員・教員組織

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

- ① 教員に求める能力・資質等の明確化
- ② 教員構成の明確化
- ③ 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

教員に求める能力・資質及び専任教員の定数については「看護師等養成所の運営に関する指導要領」により採用および適切に配置されている。専門科目領域の看護学に関しては各領域に最低1名の専任教員を配置し、年齢構成上も特段の問題はみられない。教員間における連絡調整は、毎朝の朝礼で必要な報告・連絡・相談が行なわれており、また、月1回開催される教務会や教員会でも討議されている。

【点検・評価項目】

(2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

【評価の視点】

- ① 編制方針に沿った教員組織の整備
- ② 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
- ③ 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置（修・博士，専門職）

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

専任教員の授業科目と担当教員の適合性は毎年主事・主任で検討し、各領域の教員配置を検証している。統合領域の専門領域教育（在宅・災害・医療安全教育）は、医学部職員や外部の適切な人的補助体制を敷くことにより、教育・研究活動の充実に努めている。また、非常勤講師に関しては所属分野の教授より推薦してもらっている。情報処理関連教育においては、医学部教員及び臨時職員が対応し、少人数での指導を実施している。

【点検・評価項目】

(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化
- ② 規程等に従った適切な教員人事

- ③ 教員の採用・昇格に関して日本大学の教育者・研究者として適正であるとの観点に基づいた選考

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

教員面接採用試験の基準にそって面接を実施している。面接時には複数の教員（校長・副校長・主事・主任）で実施し、看護専門学校の教育目標に沿って、必要な人材を適切に採用する。教員の任用に当たって、看護教員資格を有することを必要条件とし、専門領域を考慮した欠員に対する補充であるが、教員経験の有無や就業教員の構成を配慮し本校の教育目標に対応しうるか否かも重視している。

【点検・評価項目】

(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

【評価の視点】

- ① 教員の教育研究活動等の評価の実施
- ② ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）し、研究活動を助言する講師と検討する体制を整えている。年度毎に研究テーマに沿った研究活動を教員相互で支援し合う研究グループを決めている。

専任教員および非常勤講師のFD（共通の授業評価）を体系的・定期的に実施する準備委員会（授業評価に関する委員会）を平成21年度に設置し、専任教員を含む非常勤講師に対し平成22年度から授業評価を実施し、結果を検証および返却している。

2. 点検・評価

≪効果が上がっている事項≫

<医学部附属看護専門学校>

教員の適正配置により国家試験の合格率は常に全国平均を上回っている。

4. 根拠資料

- ① 看護師等養成所の運営に関する指導要領（資料3-1）
- ② 専門科目の担当（資料3-2）
- ③ 教員の年齢構成（資料3-3）
- ④ 委員会開催数一覧（資料3-4）
- ⑤ 研究指導計画書（資料3-5）
- ⑥ 授業評価表（資料3-6）

IV. 教育内容・方法・成果

IV-1 教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ① 学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
- ② 教育目標と学位授与方針との整合性
- ③ 修得すべき学習成果の明示

点検・評価結果

〈医学部附属看護専門学校〉

学位の授与を行っていない。

【点検・評価項目】

(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ① 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
- ② 科目区分，必修・選択の別，単位数等の明示

点検・評価結果

〈医学部附属看護専門学校〉

本校の教育目的は「看護を職業とするための専門的知識・基本的技術および態度を備えた看護の実践者を育てる。また，日本大学および社会に貢献できる人材を育成することを目的としている。この理念・目的に基づき下記の教育目標を明確に定めている。

1. 人間に深い関心を寄せ，総合的に理解できる能力を養う。
2. 人々の健康上の問題を解決するため，科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
3. 保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働し，看護をマネジメントする能力を養う。
4. 社会の変化に目を向け，看護を探究する能力を養う。
5. 看護の本質を理解し，自己の看護観を明確にできる。
6. 生命の尊厳と個々の人格を尊重できる態度を養う。

上記の目標を達成するため，カリキュラム構成は，保健師，助産師，看護師学校養成指定規則に基づき，基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・Ⅱ・統合分野に各科目を配置している。3年課程指定規則では，基礎分野 13 単位，専門基礎分野 21 単位，専門分野Ⅰ 13 単位，専門分野Ⅱ 38 単位，統合分野は 12 単位，合計 97 単位，3,000 時

間以上となっている。

本校では、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、統合分野を各 1 単位、専門分野Ⅱは 2 単位多く設定し、合計 102 単位、3,000 時間であり、基準を満たしている。授業科目は、1 科目の語学が選択であり、他は全て必修である。

【点検・評価項目】

(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

【評価の視点】

- ① 周知方法と有効性
- ② 社会への公表方法

点検・評価結果

〈医学部附属看護専門学校〉

教育目標は「学生便覧」「学習要項」「学校案内」「ホームページ」に明示している。進学説明会・入学時オリエンテーション・臨床指導者研修会で配付し説明することで社会に公表している。また、全教職員が講義・実習・学校生活指導等で機会に触れ発言・指導することで教育活動に浸透させている。

【点検・評価項目】

(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

- ① カリキュラム改定の検討

点検・評価結果

〈医学部附属看護専門学校〉

平成 21 年度カリキュラム改正に伴い教育目標を専任教員主催の「カリキュラム検討委員会」で再検討し一部修正した。検討した内容は全教員の共通理解を得、かつ各学科科目に反映させている。教員の自覚と認識により学生に授業・実習などで関わる際、浸透するよう日頃から意識して教育目標に明示した内容を指導する機会を作っている。また、年度毎に委員会で検証している。

4. 根拠資料

- ① 学生便覧（重複）（資料 1-1）
- ② 学習要項（重複）（資料 1-2）
- ③ 学校案内（重複）（資料 1-3）

IV-2 教育課程・教育内容

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

【評価の視点】

- ① 必要な授業科目の開設状況
- ② 順次性のある授業科目の体系的配置
- ③ 専門教育・教養教育の位置づけ（学士）

点検・評価結果

＜医学部附属看護専門学校＞

カリキュラム構成は、保健師、助産師、看護師学校養成指定規則に基づき、本校の教育理念・目標をふまえ、基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・Ⅱ・統合分野に各科目を配置している。指定規則では、基礎分野 13 単位、専門基礎分野 21 単位、専門分野Ⅰ 13 単位、専門分野Ⅱ 38 単位、統合分野は 12 単位、合計 97 単位、3,000 時間以上となっている。本校では、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、統合分野を各 1 単位、専門分野Ⅱは 2 単位多く設定し、合計 102 単位、3,000 時間であり、基準を満たしている。学修の順序性を考慮し、基礎分野から専門基礎分野・専門分野Ⅰ・Ⅱ・統合分野へと体系的に配置している。

【点検・評価項目】

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

【評価の視点】

- ① 学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学士）
- ② 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学士）
- ③ 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（修・博士）
- ④ 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専門職）
- ⑤ 入学前教育の実施状況

点検・評価結果

＜医学部附属看護専門学校＞

指定規則の基準及び本校の教育目標に則し、学習の順序性を考慮し、看護師に必要な知識と技術、態度を身につけさせるために、教育目標に即して必要な実習科目を位置づけ、実際の医療現場で臨地実習を実施している。

総時間 3,000 時間のうち臨地実習は 23 単位（1,035 時間）を占めている。本校は、看護の実践者を養成目的としており、理論と実践を統合する場である臨地実習を最も重要な科目として位置付けている。1 年次に基礎看護技術を十分習得し、2 年次で基礎看護学実習、3 年次で各領域実習・統合実習を集中的に実施している。設定した実習科目は在宅看護論実習を除き医学部付属病院で実施している。また、実習病棟毎に

専任教員および病棟専属の指導者の指導を受けている。

入学前に生物のみであるが必要な学習内容を明示した文書を入学前に郵送し、学習の動機づけを図っている。(臨地実習要項 専門分野Ⅰ，専門分野Ⅱ・統合分野)

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

〈医学部附属看護専門学校〉

授業科目の体系的配置により学生の理解を深め、結果、国家試験の高い合格率を維持している。

4. 根拠資料

- ① 学生便覧（重複） （資料 1-1）
- ② 臨地実習要項 （資料 4-1）

IV-3 教育方法

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育方法および学習指導は適切か。

【評価の視点】

- ① 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
- ② 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
- ③ 学生の主体的参加を促す授業方法
- ④ 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（修・博士）
- ⑤ 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専門職）

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

保健師助産師看護師養成所指定規則に係る単位に基づき本校の教育目的である「専門的知識・基本的技術および態度を備えた看護の実践者を育てる」ことに基づき学内の授業科に関しては各科目の特徴、内容、履修形態に応じて単位数を決定している。15時間から30時間を1単位、社会福祉・法規に関連した科目は30時間2単位、実習科目に関しては45時間を1単位に設定している。特に基本的技術を身につけさせるために、1年次に「基礎看護学技術グループ学習」を導入している。

各授業科目の特徴、内容、履修形態等を考慮し、かつ学習の順序性を考慮した配次に設定している。また、看護師資格を取得する必要から、臨地実習科目を履修する場合の履修条件を課している。

【点検・評価項目】

(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。

【評価の視点】

- ① シラバスの作成と内容の充実
- ② 授業内容・方法とシラバスとの整合性

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

シラバスは掲載内容を統一し、3学年分の各授業科目の学修目標、授業方法、授業計画、授業回数と学習内容、教科書・参考書、評価方法が明示されている。シラバスは入学時配付し、学生に明示している。また講義を担当する非常勤講師全員に配布することで関連科目や看護師に必要な知識・技術の情報が提供できている。年度末に履修内容の確認と毎年履修内容を確認している。

授業内容とシラバスの整合性は授業終了後に授業評価を実施し検証している。

【点検・評価項目】

(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
- ② 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
- ③ 既修得単位認定の適切性

点検・評価結果

〈医学部附属看護専門学校〉

60点を合格基準にし、合格した科目は単位を与えている。講義科目はシラバスに成績評価基準を明示し、また実習科目の成績評価は学生および指導者にも実習指導要項に明示している。実習科目は成績評価基準により、形成評価および面接試験で実習目標の到達度を測定している。実習科目に関しては毎年成績評価を検討し、専任教員間および実習場の指導者双方で周知するよう実習連絡会で確認している。

保健師助産師看護師学校養成所指定規則別表三に掲げる学校等において、また社会福祉士及び介護福祉士法第39条第1号に該当する者に対し基礎分野の科目は既修得科目については単位認定をしている。また大学・短期大学卒業者に対し、入学前に本人の申請手続きを経て「単位認定委員会」で審査のうえ単位認定している。また本校卒業後、単位の互換制を活用して看護大学への3年次編入をしている。

【点検・評価項目】

- (4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

【評価の視点】

- ① 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

点検・評価結果

〈医学部附属看護専門学校〉

専任教員は授業評価を平成22年度から実施している。授業評価を領域担当毎で共有し、次年度の授業改善に向け検討している。また看護師国家試験を分析し、各領域で出題傾向や授業の整合性、教育内容の見直し、強化すべき教科を教員が周知するよう会議で報告している。

4. 根拠資料

- ① 学習要項（重複）（資料 1-2）
- ② 基礎看護学技術グループ学習（資料 4-2）

IV-4 成果

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。

【評価の視点】

- ① 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
- ② 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

専任教員及び非常勤講師全員に対し、授業評価を平成22年度から実施している。授業評価は授業形態に応じた評価表を使用し、学生の自己評価を含む評価方法である。国家試験の結果を受け、教育内容の見直し、強化すべき教科を教員が周知し、授業や実習で実際に指導することで教育効果を上げている。講義科目では全講師に毎年実施し、評価結果を講師に返却し改善点について説明と協力を得ている。実習も評価を実施し、看護部長から該当病棟責任者に返却され教育目標の妥当性を検証している。

【点検・評価項目】

(2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 学位授与基準、学位授与手続きの適切性
- ② 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（修・博士，専門職）

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

学位の授与を行っていない。

4. 根拠資料

授業評価表（重複） （資料 3-6）

V. 学生の受け入れ

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ① 求める学生像の明示
- ② 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
- ③ 障がいのある学生の受け入れ方針

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

本校の教育理念である「看護の実践者となり日本大学および社会に貢献出来る人材を育成する」ことを教育目的とし、達成すべき教育目標を掲げ入学試験の理念としている。人間を身体的、精神的、社会的側面から統合的な存在として理解する資質を有する学生を選抜する。

求める学生像は「学生便覧」「学習要項」「学校案内」に明示し、進学説明会時に説明している。

【点検・評価項目】

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【評価の視点】

- ① 学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
- ② 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

入試管理委員会、入試実行委員会を設置し、委員会で募集方法、実施体制、選抜方法・基準を毎年審議し、改変している。また、入学選抜の基準を明確にしている。

1. 学生募集方法

学校案内、募集要項の配布状況入学者選抜方法は、付属高校入学者の出身高校および全国の高校、予備校に対し 900 部発送している。学校説明会はオープンキャンパスを7月と8月、文化祭時、他に進学予備校から依頼の高校への学校説明会、希望する付属高校への学校説明会を実施。またホームページ、予備校、出版社の看護学校案内に掲載をしている。業者主催の進学説明会では無料の参加や資料参加をしている。しかし、有料の場合は予算の関係で資料参加のみである。

学生の募集方法については「入試実行委員会」において改善・改変など検討会を重ね、採点基準や面接評価基準を作成し実施している。

2. 入試選抜方法

入学定員は80名。推薦入試約40名，一般入試Ⅰ期約40名，一般入試Ⅱ期若干名。推薦入試（付属・公募）では小論文，適性検査，面接，一般入試Ⅰ期一次試験（適性検査，学科目：国語・英語・生物），二次試験では面接，一般入試Ⅱ期試験（適性検査，小論文，英語）を実施している。少子化による志願者数減少，平成21年度における定員割れ（75名入学）したことから22年度から入試日程を1回増やし3回にした。推薦・一般ともに面接を重要視している。面接評価表をもとに看護師としての資質や適性，人間性を3人の面接委員で厳正に評価している。最終的に看護職に従事する者としての適性を具えた学生を入試管理委員会，教員会で審議し，選抜をしている。

【点検・評価項目】

（3）適切な定員を設定し，学生を受け入れるとともに，在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

【評価の視点】

- ① 収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
- ② 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応

点検・評価結果

＜医学部附属看護専門学校＞

毎年入学率を検証し，1学年の定員80名を満たすよう入学時の合格者数を決定している。在籍者に関しては留年や退学しないよう個々の学生に応じた個別指導をしている。卒業時定員割れをしないよう，入学後の退学者数を検証し，補欠合格者枠を多く，また一般入試Ⅱ期を22年度から導入し，入学者数を考慮している。総定員数は充足されている。

【点検・評価項目】

（4）学生募集および入学者選抜は，学生の受け入れ方針に基づき，公正かつ適切に実施されているかについて，定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

指定なし

点検・評価結果

＜医学部附属看護専門学校＞

入学試験を検証する組織（入試管理委員会，入試実行委員会）を開催している。構成員は，看護専門学校以外の医学部教職員を含め，入学者選抜方法の適切性について学内関係者などから意見聴取を行う仕組みを導入している。毎年4回入試管理委員会，入試実行委員会で，点検・評価・改善案などを討議している。また，科目出題問題の妥当性を検証するシステムとして，科目点検者や問題の得点率から問題の適切性や時間など入試科目の問題分析を実施し，科目出題者へ標準偏差や得点率の変化の結果を知らせ，問題の適正化を図っている。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

〈医学部附属看護専門学校〉

学校説明会の開催や進学相談会の派遣，入試広報の積極的な活動などの学生募集活動や，一般Ⅱ期入試の実施等により，推薦・一般入試共に志願者数が増加している。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈医学部附属看護専門学校〉

学生募集において，当校の特色を前面に出しながら効果的な広報を行う。

4. 根拠資料

- ① 学生便覧（重複） （資料 1-1）
- ② 学習要項（重複） （資料 1-2）
- ③ 学校案内（重複） （資料 1-3）
- ④ 入学試験要項 （資料 5-1）
- ⑤ 入学志願者状況 （資料 5-2）
- ⑥ 入学者数 （資料 5-3）

VI. 学生支援

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

① 学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

学生便覧に「奨学金内規」「定期健康診断・学生相談」「看護専門学校学生生活心得」「学生食堂・喫茶コーナー」等を明示している。医学部と合同で「学生生活委員会」を毎月第4金曜日に開催し、専任教員が参加して学生支援に関する方針を討議している。

【点検・評価項目】

(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
- ② 補習・補充教育に関する支援体制とその実施
- ③ 障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性
- ④ 奨学金等の経済的支援措置の適切性

点検・評価結果

<医学部附属看護専門学校>

本校は、学年3名による担任制をとり学生個々の特徴を理解した指導体制を整えている。休学および退学に至るまで担当が関わり個々の状況を把握し、保護者との連絡を密に行い、対処している。遅刻・欠席が多い学生に対して生活態度・学習姿勢の指導をしている。学科成績が出た頃に成績不良者に対し個人面接を実施、学習を阻害している原因など話し合い、改善への指導をしている。経済的に困窮状態にある学生に対しては、生活費確保のためにアルバイト等に時間を割かれ、学習に支障がないよう奨学資金制度を導入し、経済的支援を行っている。

平成24年度は、大学の奨学金貸与資格として、家庭の経済的理由等諸般の事情により学費等の支弁が困難であること、学業の成績が特に優秀であること、人格が優れていること、世帯人数、自宅通学か自宅外か寮生か等の基準に照らし、奨学金選考委員会を開催して決定している。その他、東京都看護師等修学資金・独立行政法人日本学生支援機構各種奨学金制度があり、これらの情報提供は、オリエンテーション及び学校案内説明会、掲示、事務課窓口で周知している。

【点検・評価項目】

(3) 学生の生活支援は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮
- ② ハラスメント防止のための措置

点検・評価結果

〈医学部附属看護専門学校〉

1年生に対し日大のGHQを実施し、個人の傾向・心のサポートを実施している。各学年で面接を行い、授業進度・寮生活・通学・友人・心配ごとなどを確認している。学生相談室を設置し、専門の心理カウンセラーにより学生の相談に対応している。また、定期健康診断を年1回5月（内科・耳鼻科・眼科・胸部X線・尿検査等）に実施し、異常な所見があった場合校医の指示で再検査を実施、必要に応じ再受診および治療を行っている。

【点検・評価項目】

(4) 学生の進路支援は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施
- ② キャリア支援に関する組織体制の整備
- ③ 関連国家試験対策及び合格率

点検・評価結果

〈医学部附属看護専門学校〉

臨地実習で履修すべき科目で在宅看護論以外は全て付属病院で実施している。2・3年次の実習中に将来自分自身の職場を事前に把握でき、付属病院の就職先については学生の自由選択である。入学年度から看護師国家試験対策として、卒業生が全員国家試験に合格できるよう支援する委員会として平成22年度に「国家試験対策委員会」を設置した。各学年に応じた国試対策計画を盛り込み、実施している。特に3年生に対しては卒業後の進路についてアンケートを行い、進路を迷っている学生の面接を実施している。また、臨地実習中の看護師適性の迷いや成績不良による実習不合格者へ随時面接を実施し、生活習慣や学習姿勢を助言している。国家試験に向け業者の模試結果を踏まえ、成績不良者に対し、看護師の意欲の確認や生活習慣、学習姿勢を助言している。さらに毎年国家試験実施後、領域毎に出題分析を実施、全教員が周知し講義・臨地実習の整合性を確認し、共通認識をしている。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈医学部附属看護専門学校〉

過去5年間の卒業生の85%~90%は医学部付属病院に就職し、外部病院は7%前後である。2%前後が看護大学の編入学や助産師・保健師学校への進学である。付属病

院の看護師のうち本校の卒業生が占める割合が半数になってきている。同じ日本大学の理念を受け育っていくことで、本学全体に還元していけるよう臨床と更なる連携と協働をする必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

＜医学部附属看護専門学校＞

国家試験対策委員会を中心として引き続き国家試験対策に取り組み、また附属病院の求める人材育成を行うため、附属病院協議会における臨床現場との意見交換を活発にする。

4. 根拠資料

- | | |
|-------------|----------|
| ① 学生便覧（重複） | （資料 1-1） |
| ② 退学・休学者数 | （資料 6-1） |
| ③ 学生相談月別件数 | （資料 6-2） |
| ④ 健康診断受診状況 | （資料 6-3） |
| ⑤ 国家試験対策計画 | （資料 6-4） |
| ⑥ 看護師国家試験状況 | （資料 6-5） |
| ⑦ 卒業生進路状況 | （資料 6-6） |

評定一覧表

基準名		看護専門学校
1	理念・目的	A
2	教育研究組織	A
3	教員・教員組織	B
4-(1)	教育内容・方法・成果 (教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針)	A
4-(2)	教育内容・方法・成果 (教育課程・教育内容)	A
4-(3)	教育内容・方法・成果 (教育方法)	A
4-(4)	教育内容・方法・成果 (成果)	A
5	学生の受け入れ	A
6	学生支援	A
7	教育研究等環境	
8	社会連携・社会貢献	
9-(1)	管理運営・財務 (管理運営)	
9-(2)	管理運営・財務 (財務)	
10	内部質保証	

[注]

評定は、以下の基準を目安に付している。

- S－ 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標の達成度が極めて高い。
- A－ 概ね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標もほぼ達成されている。
- B－ 方針に基づいた活動や目的・教育目標の達成がやや不十分である。
- C－ 方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。